

義捐金は「朝日新聞厚生文化事業団」を通じて  
子ども達への支援や福祉の充実に役立てられます。

ユネスコ第1回世界無形遺産 能楽



# 第6回 みおつくしチャリティー能

令和5年12月24日(日)

会場・大槻能楽堂

第1部 10時開演

観世流能

大藏流狂言

観世流舞囃子

金剛流能

養老 上野 朝彦

呼声 善竹 隆司

清経 立花香寿子

雪 田中 敏文

主催・公益社団法人 能楽協会 大阪支部

第2部 15時開演

観世流能

金春流舞囃子

大藏流狂言

観世流能

弱法師 赤松 禎友

龍田 金春 穂高

魚説経 善竹 彌五郎

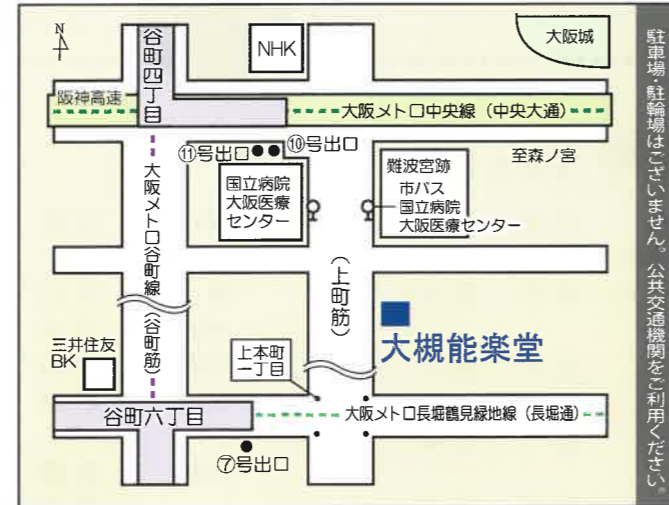
小鍛冶 今村 哲朗

## みおつくしチャリティー能

会場のご案内

### 大槻能楽堂 大阪市中央区上町A-7

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅  
⑩号出口徒歩5分(⑩号出口にエレベーターあり)
- 大阪メトロ谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅  
⑦号出口徒歩5分(⑦号出口にエレベーターあり)
- 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」下車徒歩1分  
※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行き乗車  
※あべの橋(天王寺公園前)から62系統「大阪駅前」行き乗車



駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

## ご挨拶

みおつくしチャリティー能も、第6回目を迎えます。

皆様には、チャリティーを主眼に於いた、本公演へご理解を賜りまして、心より御礼申し上げます。

今回は、ご来場頂きました皆様から頂戴しました浄財・義援金を国連難民弁務官事務所へ、70万円をお送りさせて頂きました。厚く御礼申し上げます。

本年は、【朝日新聞厚生文化事業団】を通じて、子ども達や福祉へお役に立つ様にお送りさせて頂きます。

年の瀬、お忙しい事と存じますが、何卒ご理解を賜りまして、お越し頂きたくお願い申し上げます。

公益社団法人 能楽協会 大阪支部員一同

お問い合わせ・お申し込みは  
**公益社団法人 能楽協会 大阪支部**  
 TEL 06-6761-8055 ・ FAX 06-6761-3399  
 〒540-0005 大阪市中央区上町A-7 大槻能楽堂内

本公演における写真撮影・録音・携帯電話等にての撮影・録音は著作権・肖像権に触れますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。

Unauthorized recording or photography of the performances is prohibited and a violation of copyright. (Thank you for understanding and we hope you will have a good time.)

**入場券のご案内**

- 入場料【全席自由席】
- 前売 4,000円
- 当日 4,500円
- 学生 2,000円

チケットのご購入について：  
 大槻能楽堂・出演各能楽師、チケットぴあ(Pコード：522-926)にてご購入いただけます。大槻能楽堂でご購入の場合、お電話もしくは直接窓口にてお求めいただけます。お電話でお申し込みの場合は、公演10日前までに窓口にお引き取りにきていただくか、ご郵送いたします(代金引換郵便にてご郵送いたします。ただし手数料700円がかかります)。なお、一度お申し込みされた入場券につきましては、キャンセル・変更ができません。あらかじめご了承ください。

### ご来場時のお願い

- ご入場時の混雑を避けるため、距離を取って、屋外にてお待ちいただく場合がございます。
  - 会場内での飲食はお控えください。
  - ご退場時、一斉にお席を立たれますと階段・玄関が混雑いたします。ご配慮賜りますよう、お願い申し上げます。
- ※諸般の事情により、配役や番組を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

第1部・第2部入れ替え制です。各部毎にチケットが必要になります。  
 両方ご覧になる方も、一度外に出ていただいてからの入場となります。あらかじめご了承ください。

**観世流 仕舞** **東北** 前田 飛南子  
**大江山** 宮下 昌子  
 地謡 塩谷 恵  
 前田 和子  
 山下 あさの  
 西野 翠舟

**観世流 能** **養老**  
 前シテ 樵翁 上野 朝彦  
 後シテ 山神 上野 雄介  
 前ツレ 樵夫 福王 知登  
 ワキ 勅使 中村 宜成  
 ワキツレ 従者 喜多 雅人  
 アイ 里人 善竹 隆平  
 笛 赤井 要佑  
 小鼓 成田 達志  
 大鼓 山本 寿弥  
 太鼓 上田 慎也  
 後見 上野 雄三  
 赤井 きよ子  
 地謡 上野 朝義  
 梅若 基徳  
 梅若 堯之  
 井戸 良祐  
 齊藤 信輔  
 山田 薫昇  
 伊原 昇一郎  
 梅若 雄一郎

**大蔵流 狂言** **呼声**  
 シテ 太郎冠者 善竹 隆司  
 アド 主 善竹 隆平  
 アド 次郎冠者 上吉川 徹  
 後見 小西 玲央

**観世流 舞臺子** **清経**  
 シテ 平清経 立花香寿子  
 笛 森田 啓子  
 小鼓 久田陽春子  
 大鼓 辻 雅之  
 地謡 梅若 猶義  
 井戸 和男  
 梅若 堯之  
 長山 耕三  
 山田 薫

**観世流 仕舞** **鶴之段** 大西 礼久  
**笹之段** 生一 知哉  
**玉之段** 上野 朝義  
**笠之段** 梅若 猶義  
 地謡 上野 雄三  
 山本 正人  
 井戸 良祐  
 山中 雅志

**金剛流 能** **雪**  
 シテ 雪の精 田中 敏文  
 ワキ 旅僧 廣谷 和夫  
 笛 貞光 訓義  
 小鼓 清水 皓祐  
 大鼓 守家 由訓  
 後見 豊嶋彌左衛門  
 豊嶋 幸洋  
 向井 弘記  
 地謡 谷口 雅彦  
 山口 尚志  
 中嶋 謙昌  
 藤田 章三  
 北川 米喜  
 山口 冬吾

附祝言 終了予定 13:45 頃

**能 弱法師 (よろぼし)**

他人の讒言を信じて、子供の俊徳丸を放逐してしまった父親の高安通俊。春の時正の梅の薫る中、子の償いの為に四天王寺で修行をしていると、弱法師と呼ばれる盲目の乞食に出逢います。弱法師は、昔日の記憶を辿りつつ、心静かな日想観のさまを舞にて表現します。父は、その姿を見、彼こそが手放した我が子俊徳丸であると、共に手を引き高安の里に帰ったのでした。

**能 小鍛冶 (こかじ)**

三条宗近(ワキ)が、二つの銘を持つ名刀「小狐丸」を造り出すお話を目出度い能に表現した曲です。帝の勅命を受けた宗近。相槌を任せると相手が無いことを悩み、稲荷明神に参拝します。そこに現れる少年が剣の靈験を語りつつ、相槌を務める約束をするのですが、彼こそが稲荷明神の化身であり、宗近は無事に剣を完成させる事が出来たのです。

【黒頭】の小書(特殊演出)は、より神格を持たせるものとなります。

**狂言 魚説経 (うおぜつきょう)**

元漁師の出家は未だ御経を知りません。都人に抱えられた出家は早速読経する様乞われます。未だ御経を知らないとも言えず、何とか魚の名前を言い並べて凌ごうとします。たくさんの魚が登場する楽しい曲です

**第2部 15:00 開演**

**観世流 能** **弱法師 盲目之舞**

シテ 俊徳丸 赤松 禎友  
 ワキ 高安通俊 福王 茂十郎  
 アイ 通俊ノ下人 善竹 隆司  
 笛 赤井 啓三  
 小鼓 久田 舜一郎  
 大鼓 辻 芳昭  
 後見 大槻 文藏  
 大槻 裕一  
 地謡 浅井 文義  
 齊藤 信隆  
 山本 博通  
 山本 正人  
 武富 康之  
 水田 雄晤  
 鶴 克彦  
 稲本 幹汰

**金巻流 舞臺子** **龍田**

シテ 龍田姫神 金春 穂高  
 笛 野口 亮  
 小鼓 荒木 建作  
 大鼓 森山 泰幸  
 太鼓 中田 一葉  
 地謡 佐藤 俊之  
 金春 飛翔  
 金春 嘉織  
 酒井 賢一

**観世流 能** **小鍛冶 黒頭**

前シテ 童子 今村 哲朗  
 後シテ 稲荷明神  
 前ワキ 三条宗近 喜多 雅人  
 後ワキ 前同人 中村 宜成  
 ワキツレ 勅使 小西 玲央  
 アイ 宗近ノ下人  
 笛 齊藤 敦史  
 小鼓 上田 敦史  
 大鼓 山本 哲也  
 太鼓 中田 弘美  
 後見 生一 知哉  
 武富 康之  
 地謡 大西 礼久  
 寺澤 幸祐  
 長山 耕三  
 齊藤 信輔  
 林本 大昭  
 金子 克壬  
 永田 誠士  
 田中

**大蔵流 狂言** **魚説経**

シテ 出家 善竹 彌五郎  
 アド 施主 上西 良介  
 後見 上吉川 徹  
 地謡 辰巳 孝弥  
 澤田 宏司  
 渡邊 珪助  
 畑 宏隆

**宝生流 仕舞** **兼平 籠太鼓**

辰巳 大二郎  
 石黒 実都

**観世流 仕舞** **白楽天 敦盛 江口 蟬丸 昭君**

山本 博通  
 林本 大  
 梅若 基徳  
 山中 雅志  
 大槻 裕一  
 地謡 松浦 信一郎  
 小西 弘通  
 寺澤 幸祐  
 水田 雄晤

**第1部 10:00 開演**

**能 養老 (ようろう)**

雄略天皇の御代。美濃国、本巢の郡に不思議な泉が現われた為に臣下が視察に赴きます。そこに親子の民が勅使を迎え、帝の穏やかな御代を賛え、霊水を酌み交わしながら御代の恵みを寿いでいるうち、山神が現われて統治された代の穏やかさを祝福するお話です。颯爽とした神の舞(神舞)は、御代の

平和を願う気持ちが入められています。

**能 雪 (ゆき)**

金剛流のみに伝わる三番目物で、一場面構成された曲です。摂津野田で雪に見舞われた旅の僧の前に、美しい女性が現われ、自分の迷いを晴らして欲しいと頼みます。月光の下、その女は袖を翻して細雪の舞を見せ夜明けと共に儚く消え失せます。

摂津の国は雪が積もりやすい～そんな場所を舞台とした小洒落た曲です。

**狂言 呼声 (よびこえ)**

主人は無断欠勤をした太郎冠者を叱りに行きましたが、太郎冠者は居留守をします。主人は声色を変えたり、室町歌謡を用いて呼び出しますが…。主人側と太郎冠者との駆け引きが笑いを誘います。

附祝言

終了予定 18:45 頃